

株式会社 フクナガエンジニアリング

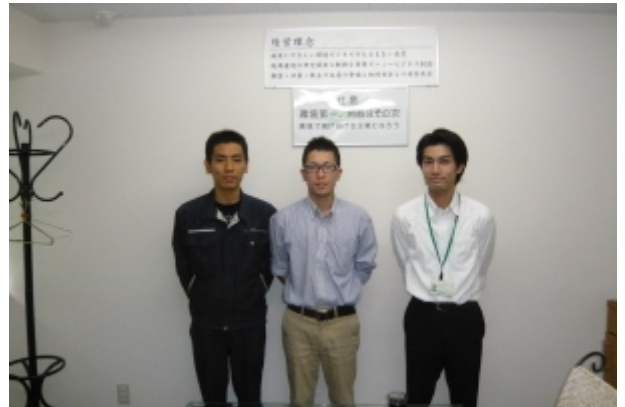
(写真右から)

管理本部 古川 部長

ソフトバッグ事業部 乾 部長

エコソフトタイヤ事業部 額田さん

～資源リサイクルとリユースにより
産業廃棄物の発生抑制に貢献～



■技術・製品の概要

【耐候性に優れたコンテナバッグ「エコソフトバッグ」】

本製品は、リサイクル材を半量以上使用したフレコンバッグです。

一般的なプラスチック原料ではフレコンの耐候性には不足する場合がありますが、光または熱による酸化・劣化を抑制する各種添加剤の最適な配合により耐候性を向上させ、長寿命化により省資源を実現しています。



【環境配慮型産業車両用タイヤ「エコソフトタイヤ」】

本製品は、コアタイヤ(ゴム弾性部分)とカバータイヤ(トレッド部分)の2重構造からなる産業車両用タイヤです。

トレッド部が摩耗した場合はカバータイヤのみを交換し、残りのコアタイヤ部は繰り返し使用することにより、従来型ノーパンクタイヤと比べて廃棄量を半分以下に削減することができ、また、タイヤ購入にかかる費用も低減されます。



■申請後の改良点はありますか。

【エコソフトバッグ】

申請後、製造したバッグは完売している状況でしたが、原材料として使用していた廃プラの廃材(壁材)が入手困難となり、最近では製造・販売できない状態が続いています。

入手先の工場内での循環使用が進み、廃棄量が減少したためだと思われます。

現在は、安定して入手可能なフィルム廃材を原材料に転換した製品を開発し、今年6月から中国で量産可能となりました。今年10月より本格的に販売開始いたします。

新製品は、従来のエコソフトバッグよりも強度が向上しています。

【エコソフトタイヤ】

カバータイヤがコアタイヤから外れにくく、より安全に使用できるよう引き続き開発を行っています。

カバータイヤの離脱を防ぐため、スチールコードやナイロンコードをカバータイヤ外側に装填していますが、使用現場における障害物の有無や路面状況等により内側からも離脱するおそれがあるため、様々な現場に対応できるよう改良を進めています。

食品関連工場等は緑色の床面が多く、黒いタイヤ跡が残らないカラータイヤの開発が必要ですが、カラータイヤの基となる白色タイヤは添加剤に制限があるため製造が難しく、例えばゴムを練ってから速やかに加硫し成型するなどの技術を要します。

現在は、磨耗性や製造の容易さ等を検討し、タイヤ原料のレシピを自社で開発したところで、現場での使用により不具合が発生しないか等を見ているところです。

今後の課題としては、カバータイヤの離脱を防ぐ改良と、タイヤ製造コストを下げ販売価格を抑えることです。

■本事業による普及効果等を教えてください。

問い合わせ件数、当社ホームページのアクセス数ともに増加しました。

特にエコソフトタイヤへの問い合わせ数は、原油価格が高騰した影響からか、昨年後半に急増しました。

また、公的機関で紹介されていることから、公的機関との取引が増えました。

■本事業の活用方法について教えてください。

営業に活用しています。

今後は当研究所HPのリンクを貼り、本事業のロゴマーク(Osaka Eco Tech)を営業活動に使っていきたいと思います。

■当技術の実績事例について教えてください。

エコソフトバッグは、全国の環境局や清掃局並びに産業廃棄物処理業者様でごみの分別用バッグとして使われています。

■最後に、本事業へのご要望はございますか。

当社の評価技術・製品を公的機関へ紹介していただきたい。

会社正面

